

熊本で「公共サービス」ラッピングバスが運行開始(7/25)

－「公共サービス基本条例」「公契約条例」制定に向けアピールー

熊本県公務労協は、7月25日熊本市熊本電鉄本社において、良質な公共サービスの確立をめざして「ラッピングバス運行記念式典」を開催し、約80名が参加した。主催者を代表し、岩田智子議長は「福祉、医療、交通などの公共サービスは私たちの暮らしに欠かせないもの。その大切さをアピールしていこう」とあいさつ。式典には連合熊本、熊本県地方自治研究センターの代表、各級議員などが招かれ、それぞれ公共サービスの重要性とその充実に向けた取組み決意などを表明した。

ラッピングバスは、バス会社4社（九州産交バス、熊本電鉄バス、熊本バス、熊本都市バス）が運行し、うち3台は市内路線を、1台は熊本－福岡間の高速路線を1年間走る。なお、デザインは同じくラッピングバスを運行している徳島県公務労協の協力のもと制作された。

式典終了後には、公務労協花村靖副事務局長を講師に学習会が開催され、公共サービス基本条例や公契約条例制定の重要性と条例制定に向けた取組みなどについて理解を深めた。

熊本県公務労協は、引き続き、公共サービス基本条例制定に向けた自治体要請行動などの取組みを予定している。



岩田議長（中央）をはじめ各組織代表によるテープカット